

学生時代に映画「市民ケーン」をみて、文化事業を成功させるのは難しいことだと思いました。主人公のケーンは実業家として成功しますが安易な気持ちでオペラ劇場をつくって大失敗します。

私の知る限りですが、実業家兼文化人として最も成功した人は、阪急電鉄と宝塚歌劇をつくった小林一三だと思います。

宝塚の町を訪れたことがあります。宝塚歌劇場は劇場というよりむしろお城のようで、町のあちらこちらに宝塚歌劇団のポスターが貼られていました。町そのものが宝塚文化だと感じました。彼は鉄道事業を成功させる一方、独特の美意識を持った茶人でもあったそうです。文化をつくるために必要なことは強い熱意と鋭いセンスの2つではないかと思えます。ケーンにはその2つが備わっていませんでした。

宝塚歌劇のような独特の文化をつくりあげてそれが継続しているというのは、小林一三の文化への熱意とセンスが並外れていたからでしょう。

「安全文化」ということばがありますが、安全を守るという強い意志と安全のための改善や工夫、その2つが重要ではないかと思えます。

3月号は安全大会開催記事が4つ掲載されています。各支部の強い熱意とすぐれた工夫をご覧ください。(M.K)

冬に手指の肌荒れがひどい私は、毎年スマホやタブレットの指紋認証システムに泣かされます。スマホは顔認証の機種に変更し、やっと解放されましたが、タブレットは相変わらず10回のうち9～10回弾かれます。

この指紋認証や顔認証等をまとめて「生体認証」といいますが、他には虹彩認証、網膜認証、手の形状認証、耳認証などがあるようです。身体的なパーツは誰一人同じものがないという点で、セキュアな鍵でありパスワードを覚えなくてよいというメリットもあります。一方、指紋の場合、私のようなデメリットもあれば、各個人唯一のものという点で、いったん盗まれてしまうと違う指紋や虹彩に変えることができないというデメリットもあります。

指紋の場合、SNSなどに投稿した自分のVサイン写真の指の部分から抽出した指紋写真で不正アクセスできる可能性があるそうですし、虹彩や網膜もサーバからデータが流出してしまうと、指紋と同様になります。

サービス提供側としては、そうした生体認証だけに絞っていく動きもあるようですが、安全性の観点からは、従来のID・パスワードベースの認証システムも引き続き併用され続けることが重要ではないかと思えます。世の中、便利にすればするほど、スキが生まれてくるものです。日常を楽にするための不安全行動にも注意したいものです。(Y.H)

こんな時が危ない!

- 工事繁忙期よりも、終期、特に撤収作業時
- 非常に危険と思われる作業よりも、それほど危険と思われない作業時
- 同一作業が長く続くよりも、1日～2日とか半日、あるいはもっと短時間で終わる作業時
- わかりきった常識的な作業手順を守らない時
- 作業時に積極的な人が、指示以外の作業をした時
- 安全設備を取りつける段取りに取りかかる前
- 教育を十分うけているはずの職長や工事監督がルール無視の行動をした時
- 立入り禁止箇所、危険箇所を承知して、そこへ行った時

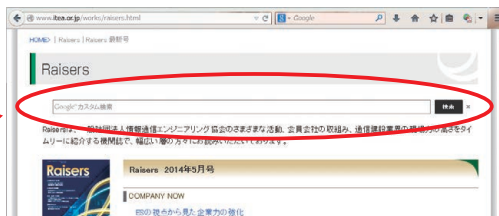
「Raisers」はホームページでも閲覧可能です!

「Raisers」の最新号から過去記事までホームページで閲覧することができます。

<http://www.itea.or.jp/works/raisers.html>

また、ホームページ内の検索窓から

読みたい記事の関連キーワードにより全文検索も可能です。是非ご利用ください。



Raisers第68巻第2号(通巻第741号) 2020年3月5日印刷 2020年3月10日発行

本体価格600円(税別) ※会員、特別会員の本誌の購読料は、会費の中にこれを含む

■編集 一般社団法人情報通信エンジニアリング協会 〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町3-3

Tel. (03) 3464-3211(代) Fax. (03) 3464-3216

■発行所 一般社団法人電気通信協会 〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-1-1 如水ビルディング6階

Tel. (03) 3288-0608 Fax (03) 3288-0615

(本誌掲載記事の無断転載を禁じます。)

